



「1年364日は畑にいる」と北岡さん

# 農業参入者を支援

## 埼玉元気農業塾

滑川町 北岡美明さん

比企郡滑川町、国営武蔵丘陵森林公園のすぐ近くに「埼玉元気農業塾」という農場がある。現役時代は県職員として農林行政一筋に携わってきた北岡美明さん(63)がその経験や知識をもとに、農業に新規参入する人たちのサポートをしようとする主宰する農業体験場だ。

(武井)

北岡さんは、在職中「農地がなかなか借りられない」、「就農研修は受けたがその後のフォローをしてくれない」など不安を抱えている人が多いことを知り、その手助けをしようと計画を温め続け、定年を機に実行に移した。

### 定年を機に計画実行 荒れ農地を1年かけ整地 生産から販売まで研修

樹齢30年以上の木が生い茂り、奥の民家からは道路が見えないほどだった。その荒れた土地を約1年かけて一人ひとりで整地した。現在はビニールハウス2棟が併設された立派な農場になっており、そのころの面影はない。「まさに『開墾』でしたね。始めは道具もなかったのですが、ノコギリで木を切ったのですよ。あのビニールハウスも一人で建てました」という。自宅から農場までは、車で片道30〜40分かけて通って来る。

「まあサラリーマンの延長みたいなものですわね。しかし、1年のうち休むのは元日から、364日は畑にいます。雨が降ってもやることはあるし」と話す。農業塾は、農業に新規参入希望する人たちを受け入れ、生産から販売までを研修・体験してもらおう。期間は定めておらず、その人に任せている。

→2面に続く

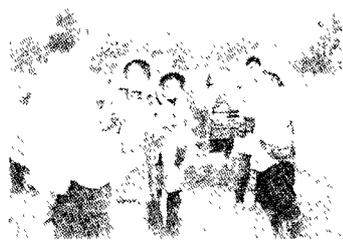
藍染めを観光資源に	2面
匠の技・竹釣り竿	3面
ズッキーニのレシピ	7面
ミニ・デイサービス	8面

クリック

### 「感動する心を大切に」

→1面から続く

北岡さんは「定年退職後に『のんびり農業でもしながら暮らせた』と考えている人も多いのですが、そういう人は途中で飽きたり、奥さんに反対されたり、今さらこんな苦勞しなくても、などと長続きしません。どちらかというと若い人の方が頑張りかな」と、われわれには耳の痛い話もする。「農業を始めても3〜4年は収入は期待できません。しかし農業に意欲を見出す人には協力もします。仲間作りの手伝いもします。独立したらネットワークを組んで相互協力してもいいし、ここで一緒に農業をやってもいい。いろいろ



談笑する北岡さんと研修者

いろいろな形態がありますよ」という。

谷市の養護施設の児童が月に一度農作業に来る。「ジャガイモや、枝豆の種をまいて収穫、試食までを体験します。実際に生き生きと、楽しそうに作業をしていますよ。また調理師専門学校や高校から体験の申し込みもあります」という。

「この畑も、今でこそ作物を少し出荷できるところまでですが、出費の方が多いです。ほとんどボランティアをやってもらっていますね」という。

「そこまで苦勞して何か楽しいことでもあるのですか」と尋ねると「まあ、ここにいることが体が楽しい。われわれは土や野菜の持っている生命力の手助けをしていて、作物を味わって感動する心が大切ですね。私も現役時代は又々ボウ気味の体のあちこちに不調を抱えていたが、今はとても快適です。土や空気、緑や風、何が良かったのかは分かりませんが」と浅黒く日焼けした顔をほころばせた。

問い合わせは ☎090-2744-6602